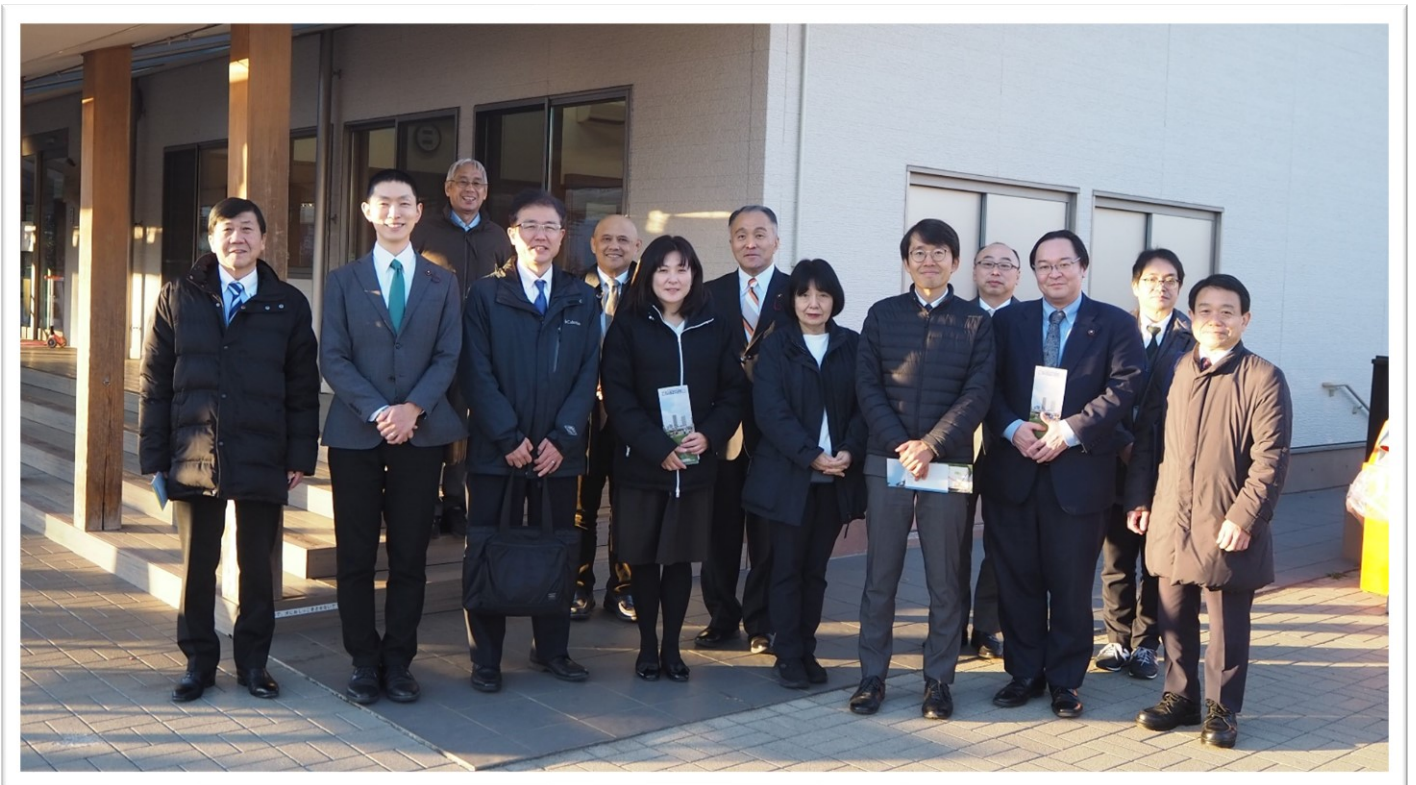


令和7年度 文京区議会

災害対策調査特別委員会
視察報告書



雑司が谷公園丘の上テラス前にて

視察概要

1 視察日程

令和7年12月4日(木) 午後3時～午後5時

2 視察先

- ①豊島区 雑司が谷公園丘の上テラス
- ②としまみどりの防災公園 (IKE・SUNPARK)

3 視察目的

- ①「ソーラーパネルによる停電時の照明」「雨水貯留槽と防火水槽」等の防災設備及び地域コミュニティの中の防災拠点としての役割についての調査研究
- ②非常時の避難場所やヘリポート、災害用物資の集積所としての機能など、都心部での防災公園の役割についての調査研究

4 視察参加者

委員長	宮本	伸一
副委員長	たかはま	なおき
理事	吉村	美紀
理事	石沢	のりゆき
理事	豪一	
理事	宮崎	こうき
理事	岡崎	義顕
理事	浅田	保雄
理事	海津	敦子
理事	山本	一仁
委員	浅川	のぼる
同行	榎戸	研 (防災危機管理室長)
同行	齊藤	嘉之 (防災危機管理課長)
随行	佐久間	康一 (区議会事務局長)
随行	糸日谷	友 (区議会事務局議事調査主査)

5 視察先対応者

豊島区 都市整備部公園緑地課 公園活用グループ

小俣 係長

柴田 主事

岩崎 主任



視察内容① ～雑司が谷公園丘の上テラス～

1 施設概要

雑司が谷公園	
所在地	東京都豊島区雑司が谷2丁目11番、12番
面積	8653.75㎡
開園	昭和61年4月1日（旧雑司が谷公園）
改修後開園	令和2年3月28日

丘の上テラス	
住所	東京都豊島区雑司が谷2丁目12番1号
構造	鉄筋コンクリート造及び木造（準耐火造）
階数	地下1階・地上1階

建築面積	469.98㎡
延床面積	499.24㎡
各階床面積	地下1階157.45㎡/1階336.10㎡/PH階5.69㎡
開館	令和2年3月28日

2 雑司が谷公園ができるまで

①雑司が谷公園の敷地

雑司が谷公園の敷地には、高田小学校という明治11年の開校から123年の歴史を持つ学校があったが、児童の減少に伴い近隣校との統合により、平成13年に閉校となった。

この高田小学校は多くの児童の学び舎であるとともに近隣の救援センターとなっており、防災の拠点としても重要な施設であった。

学校の跡地は公園になることが決められたが、周辺道路が狭隘であり、工事を進めることが難しく、しばらくは区民利用施設として校舎の一部と校庭が解放され、区民の方々に利用されていた。



②木密市街地の安全性向上のために

この雑司が谷地区は木造密集市街地であり、雑司が谷地区と南池袋地区は地域危険度のランクが4の災害危険度の高いエリアであった。南池袋地区ではまちづくりが進む一方、最も危険度が高い雑司が谷二丁目ではまちづくり事業が行われず、かつ救援センターである高田小学校が無くなってしまいうなど、防災面で多くの課題があった。

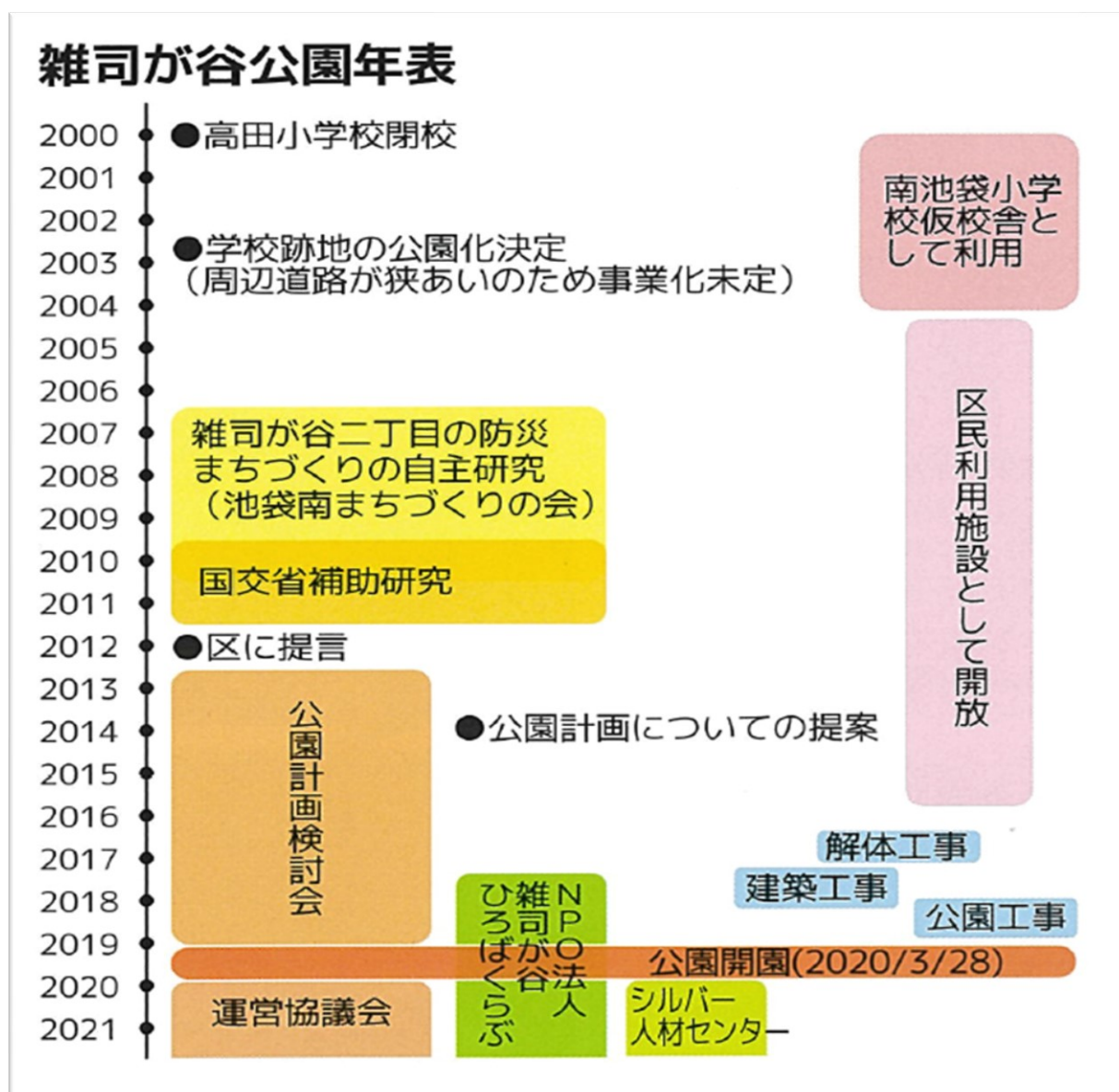
そこで、独自に地域のまちづくりや防災対策に取り組んでいた当時の池袋南まちづくりの会、現在の雑司が谷・南池袋まちづくりの会が、豊島区に防災まちづくりの提言を行い、それを受け区は公園計画検討会をつくり、検討を開始した。また、公園と必要最低限の道路整備を核とした防災まちづくりに取り組むこととし、老朽住宅などの除却・建替えの促進等により、地区施設の整備を総合的に行う居住環境総合整備事業を、今現在もやっている。

③公園計画検討会から開園まで

計画検討会では地域のまちづくりに携わっていた地域の方々と共に、白紙の状況から検討が始まった。

検討会ではまち作りのワークショップから始まり、①災害時にも役立つ公園、②地域コミュニティの拠点となる公園、③雑司が谷らしさのある公園、④平常時、災害時に地域の拠点となる施設、以上の目標を基に公園の計画案を提案。

その他、民間活力の利用、維持管理の方法等について、7年間に及ぶ検討を重ね、令和2年3月に開園となった。



視察資料より

雑司が谷公園のビフォア・アフター



高田小学校の校舎と校庭



広々したはらっぱとボールひろば



北東の狭あい道路と老朽化した擁壁



敷地内通路の整備と建物のセットバック



見通しの悪い南側の道



敷地内通路の整備と見通しの確保

視察資料より

3 雑司が谷公園の運営体制

①雑司が谷公園運営協議会

地域の町会・商店会、大学による学識経験者、地元のNPO法人、コンサルタント、また区の公園緑地課によって、雑司が谷公園運営協議会が組織されており、雑司が谷公園の運営の中心となっている。

②雑司が谷ひろばくらぶ

また、検討会の目標でもあった①災害時にも役立つ公園、②地域コミュニティの拠点となる公園、といった検討を通じて、今後の公園管理にも地元の住民が参加できるようにしたいとの意識が高まり、検討会の有志によりNPO法人雑司が谷ひろばくらぶが組織された。

現在もこの雑司が谷ひろばくらぶが雑司が谷公園と丘の上テラスの維持管理、運営協議会の運営、加えて周辺8公園の維持管理・運営を担っており、地区内の小規模公園を核としたまちづくりなど、多彩な活動を行っている。

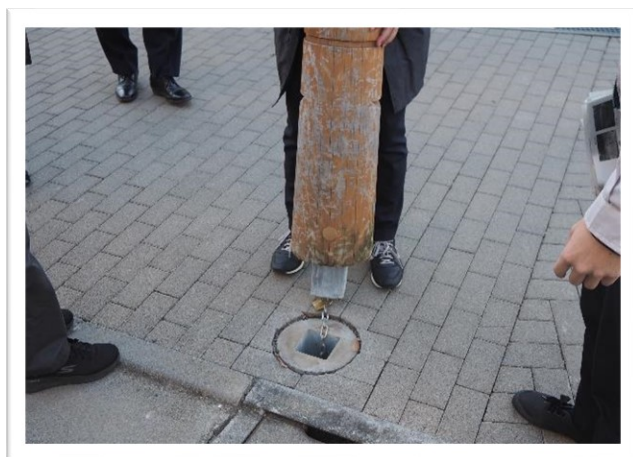
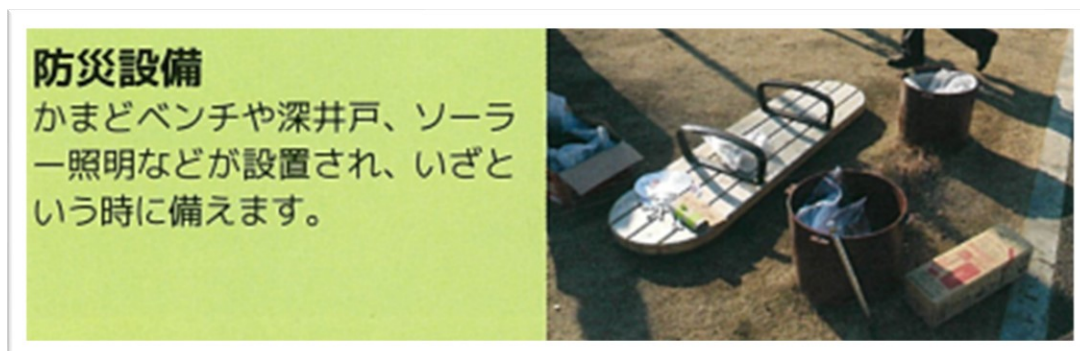
4 公園内の防災施設

雑司が谷公園は、近隣中学校などの「救援センター」を補完する「補助救援センター」と位置づけられている。

「救援センター」は区の職員により運営されるが、「補助救援センター」は住民が運営する場となり、救援センターと連携しながら、より身近な避難や支援を行う体制をつくることとなる。

また、課題であった地域防災力向上のため、雑司が谷公園及び丘の上テラスには各種防災設備が整備されている。

①雑司が谷公園の防災設備



緊急時に取り外しのできる車止めのポール

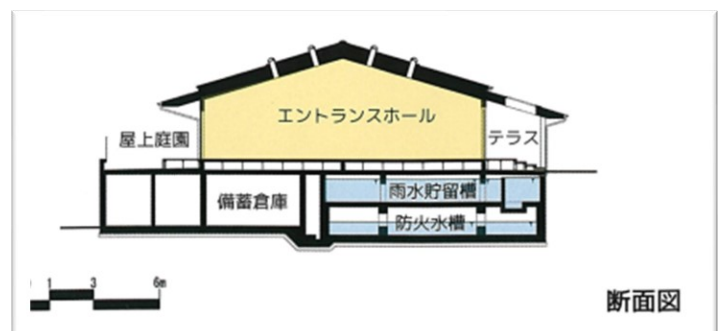
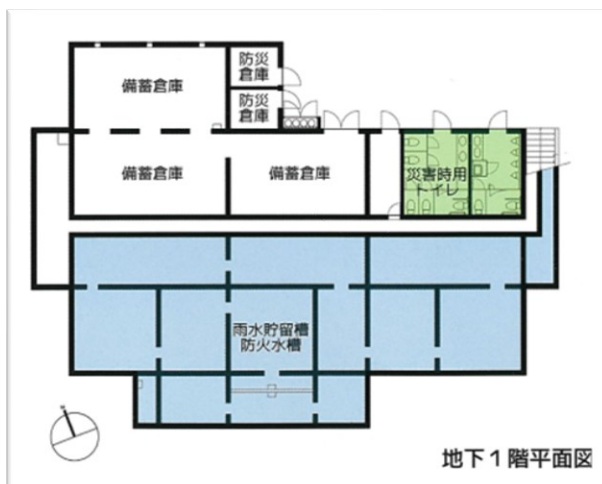


公園内のかまどベンチ

②丘の上テラスの防災設備



災害時用トイレの視察風景



雨水貯水槽・防火水槽の設計図面

備蓄倉庫・防災倉庫

備蓄倉庫には区の備蓄物資が入っています。防災倉庫には地元町会の応急資機材が入っています。



太陽光発電

屋根のソーラーパネルで発電した電気を蓄電し、災害時の照明や携帯電話の充電に利用できます。電気の一部は、平常時の夜間照明などに使っています。



5 質疑応答

Q：防災を位置づけるにあたり、広域になるほど地域のコンセンサスを得ることが難しくなると思われるが、中心となる方、旗振り役は誰がどのように行っているのか。また、災害時に中心となる方はどのように決めているのか、伺いたい。

A：この地域については、最初は南池袋周辺のまち作りから始まり、地元の方々からの提言を受け、雑司が谷1丁目、2丁目と範囲を広げて、地域の居住環境総合整備事業を行っている。こちらは区の地域まちづくり課が中心となって、まちづくり協議会による防災まちづくりを進めている。

災害時の対応については、運営協議会とはまた別に、区の防災課の方で周辺町会や地元の方々との協議を行い、取り組んでいるところである。

Q：雑司が谷公園と丘の上テラスは救援センターを補完する「補助救援センター」であり、「住民が自主的に運営する」とあるが、携わる方の構成は町会単位なのか、有志の方なのか、どのような組織体系で運営をしているのか、具体的に伺いたい。

A：まずこの雑司が谷公園は、区が指定する周辺3町会の災害時の一時集合場所となっており、まずはこの公園に避難し、そこでここも危険となった場合は、小学校等の避難所に移る流れとなっている。災害時に一時集合場所と補助救援センターの機能をどう調整し、運営していくかについては、周辺3町会と公園を運営している雑司が谷ひろばくらぶ、また区の防災課と現在、調整・協議しているところである。

視察内容② ～としまみどりの防災公園～

1 施設概要

としまみどりの防災公園（IKE・SUNPARK）	
所在地	東京都豊島区東池袋4丁目42番
地区面積	約3.2ha（防災公園区域1.7ha、市街地区域1.5ha）
従前土地利用	独立行政法人造幣局東京支局（工場、博物館、庁舎等の建物23棟）
用途地域	第一種住居地域（60%/400%）
開発手法	防災公園街区整備事業（施行者：独立行政法人都市再生機構）

2 としまみどりの防災公園（IKE・SUNPARK）ができるまで

当該地区には造幣局東京支局があり、昭和14年から貨幣や勲章の製造等が行われていた。元々、豊島区は23区の中でも、1人当たりの公園面積が少ない区であり、公園を要望する声が多数あったこともあり、昭和40年代には造幣局地区の公園化についての検討が開始、昭和59年には豊島区町会連合会から、平成2年には豊島区議会・豊島区長から、それぞれ当時の大蔵省宛に造幣局移転、またその跡地に防災公園の設置を求める要望書が提出された。

平成25年に造幣局の移転が決まると、豊島区と造幣局が今後のまちづくりに関する確認書を締結、平成26年には造幣局地区まちづくり計画が策定された。平成27年に豊島区から都市再生機構（UR）へ、防災公園街区整備事業の実施が要請され、基本協定書を締結。

これは3.2haの土地を区が主導して整備することについて、区はノウハウがなかったため、本土地を一括でURが取得、公園を整備、事業者の決定など、URの経験を生かしつつ整備を進めていき、平成31年5月に工事着工、令和2年12月に開園となった。



事業経緯・予定	
昭和40年代	造幣局地区の公園化について様々な検討が開始
昭和59年	造幣局東京支局移転促進に関する要望書を提出（豊島区町会連合会⇒大蔵大臣）
平成2年	大蔵省造幣局東京支局を移転し、その跡地に防災公園設置を求める要望書を提出（豊島区議会・豊島区長⇒大蔵大臣）
平成25年7月	造幣局東京支局敷地の有効活用に係る確認書を締結（豊島区・造幣局）
平成26年10月	造幣局地区街づくり計画策定（豊島区）
平成27年1月	防災公園街区整備事業の実施を要請（豊島区⇒UR）
平成27年4月	造幣局地区におけるまちづくりに係る協定書を締結（豊島区・造幣局・UR）
平成27年4月	造幣局地区防災公園街区整備事業に関する基本協定書を締結（豊島区・UR）
平成28年1月	都市計画決定（公園、地区計画）
平成28年2月	造幣局東京支局跡地を取得（造幣局⇒UR）
平成29年2月	都市計画事業承認（公園）
平成29年10月	市街地A 土地の譲受人決定（東京国際大学）
平成30年1月	防災公園 事業者決定（日比谷アメニス・都市計画研究所・株木建設・NTT都市開発ビルサービスコンソーシアム）
平成30年3月	補助176号他道路整備工事等委託契約書を締結（豊島区・UR）
平成30年7月	補助176号他道路 工事着工
平成31年5月	防災公園 工事着工
令和元年12月	補助176号他道路 工事完了
令和2年7月	防災公園 一部開園（倉庫棟周辺を除く）
令和2年9月	市街地A 土地引き渡し（UR⇒東京国際大学）
令和2年12月	防災公園 全面開園・開園式

視察資料より

3 プロジェクト概要（土地利用の方針と地区整備内容）

3.2haある土地のうち、公園の東側と南側は木密地域であり、迅速な避難行動への対応・延焼遮断機能の発揮のため、1.7haを①防災公園区域として整備。

公園の西側はサンシャインシティがあり、池袋駅に繋がる商業エリアとなっている。このうち、②は市街地A（市街地A）として、東京国際大学を誘致。

③市街地B（市街地B）については、造幣局の南地区の防災性向上のため、地元・豊島区・URによる「造幣局南地区まちづくり協議会」にて、木密地域との一体的なまちづくりについて検討が進められており、現在は豊島区がURから借地をし、池袋保健所・としまキッズパークとして、暫定活用されている。



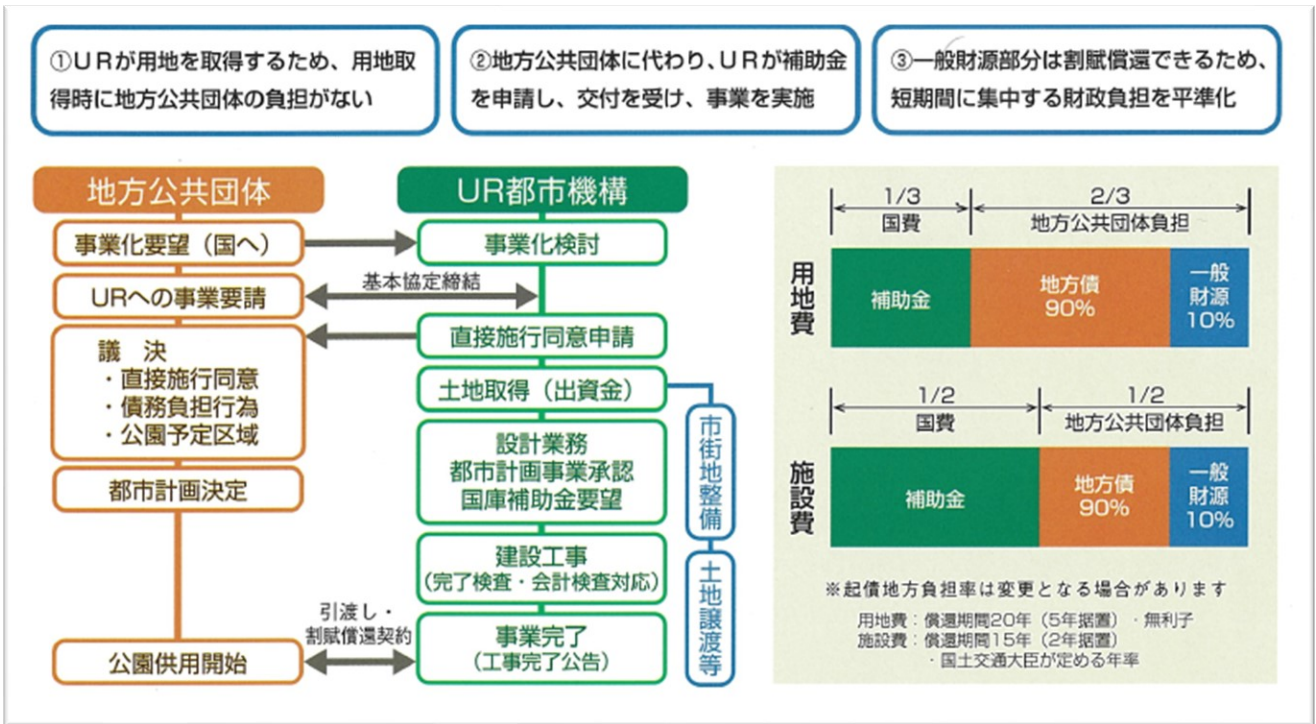
視察資料より

4 事業手法（防災公園街区整備事業）

事業スキームについては、区とURとで防災公園街区整備事業を活用して整備した。防災公園街区整備事業とは、災害等に対し脆弱な構造となっている都市の既成市街地において、地方公共団体からの要請に基づき、URが工場跡地等を機動的に取得するとともに防災公園の整備と周辺市街地の整備改善を一体的に実施し、防災性の向上を図る事業である。

区のメリットとすると、「①区としてはなかなか大規模公園を整備する機会がなく、ノウハウがない中、全国で多数の事業を展開しているURの知見を活用できる。②土地取得には多額の費用がかかり、自治体の財政負担が大きいですが、まずURが一旦用地取得を肩代わりし、その後分割払いとなるので、財政負担の平準化が可能となる。③全国で同様の事業を展開しノウハウのあるURにより、制度が複雑な国庫補助金の取りこぼしが防げる。また、その申請手続き等についてもスムーズに進めることができる。」といったところがあげられる。

事業スキームの体制は、設計・施工・管理運営を一体的に進める企業体で構成されるコンソーシアムを公募。規模の大きい公園であるため、それぞれが連携しスムーズに運営できる体制で行っている。



視察資料より

5 公園内の防災施設

公園の主な役割である防災性の向上として、まずは①約6,600㎡の芝生広場を整備。平常時は憩いの場や多彩なイベント空間として機能しており、災害直後は地域住民や帰宅困難者の方の一時的な避難場所となる。その後、救援物資等々の集積集配所として機能。豊島区は大きな体育館やホールがないため、公園にテントを立ててそこから区内全域に広めていくことを想定している。

続いて②芝生中央部に耐圧路盤を設置し、ヘリコプターの離発着が可能なヘリポートを整備。③防火樹林帯として、木密地域に面した公園の東側と南側に白樺 (シラカシ) という延焼を防ぐ樹木を3列配置している。④非常用トイレは、施設内に15基設置しており、水道が止まっても地下水を使用して流すことのできる仕様となっている。

その他、備蓄倉庫、かまどベンチ、非常用発電機、防災井戸・深井戸などの各種防災設備を備えている。



▲① 芝生広場 (約6,600㎡)
一時避難場所や救援物資搬入、集配拠点として機能



▲② ヘリポート
ヘリコプターに対応した耐圧路盤を整備



▲ ③ 防火樹林帯

木造住宅密集地域に面した外周部に、火災の延焼を防ぐシラカシを植樹し、防火樹林帯として機能を確保



▲ ④ 非常用トイレ（一般仕様）

※上記のほか、備蓄倉庫や深井戸、応急給水槽、耐震性貯水槽、発電機、かまどベンチ等を整備



視察資料及び視察風景

5 質疑応答

Q：防災機能を持たせるにあたって、どのように財源を確保したのか。また、国や都からの補助金は全体の工事費用の何割ぐらいか、伺いたい。

A：総事業費が約197億円。その内、土地購入費は約178億円で整備費が約19億円。補助金は国費が61億円、都市計画交付金が40億円、特別区財政調整交付金が約84億円。区費は約12億円となっている。

Q：公園の維持管理・運営はどのようにしているか、また費用について、伺いたい。

A：指定管理者制度を導入して、株式会社日比谷アメニスが維持管理しており、費用としては年間約1億円の指定管理料を拠出している。

Q：としまみどりの防災公園（IKE・SUNPARK）は公募設置管理制度（Park-PFI）を活用しているが、イベントの開催やスタートアップ等の活動事例等の成果と課題について、伺いたい。

A：当公園は北九州市に続いて全国2例目の Park-PFI 事業である。公募対象公園施設及び特定公園施設は、「カフェの内装」「ウッドデッキ」「園路の一部」で、建蔽率が10%上乗せされ倉庫やトイレの他、カフェを設置することが可能となった。また、設置管理許可期間の特例により、設置期間を20年に延長。カフェ事業者は収益性の確保に努めることができるとともに、カフェの収益の一部を公園整備費に充てることもできた。民間資金の投入により、公的資金の拠出が抑えられ、かつ公園利用者の利便性の向上が図られたことが大きなメリットである。

Q：日常時はもちろんのこと、非常時にも役立つようにフェーズフリーを意識した設計について、伺いたい。

A：当初から、公園に防災機能を持たせることは当たり前のようにやってきたため、日常は憩いの場に、災害時は区民の安全安心を守る様々な機能を持ち合わせている公園を目指しており、そういった住民の声を大切にしてきた結果になるかと考えている。また、他の公園でも改修時、防災機能については随時検討している。

Q：豊島区はこれまで「公園がまちを変える」をコンセプトに掲げて公園の再整備を進めてこられた。としまみどりの防災公園（IKE・SUNPARK）を含め4つの公園を起点に回遊性を高め、賑わいの創出を図ってきた成果と今後の課題について、伺いたい。

A：各公園の特色を活かし、土日には誰もが参加できる多彩なイベントを開催し、訪れるたびに新たな発見に出会える、そういった公園を核とした魅力あるまちづくりを展開している。これらの公園をつなぐ交通手段として、IKEBUS（イケバス）を運営しており、これが連携することで池袋のまちに面的な交流や賑わいが生まれ始めている。課題としては、一般的な公園よりも維持管理費用が大きく、施設の更新時期に莫大な費用がかかることが想定される、といったことがあげられる。

視察の感想

視察を終えて

宮本 伸一 委員長

平成13年に高田小学校が廃校することに伴い、災害対策機能を備えた公園として誕生した雑司が谷公園を視察。木密密集市街地であるこの地域においては、以前から地域の皆様の防災への意識も高く、地域有志による「まちづくりの会」からの提言を受けて7年かけて検討を行い「災害時に役立つ公園」など4つの目標を定めて公園建設の計画案を策定した。その後も、この地元住民による公園の管理にも参加をしたいという意識の高まりもあり、公園の運営・管理にも区からの委託を受けて取り組んでいることは素晴らしいことと思った。また、豊島区では避難所などが「救援センター」として様々な支援を届ける拠点ともなっていると認識があり、これは文京区の避難所運営ガイドラインの見直しにおいても参考になると思った。文京区の災害対策に活かしたい。

造幣局地区の移転に伴い、「としまみどりの防災公園」として整備された公園を視察。当該地域が木密地域であったことから、地域住民また区としても当初から防災公園整備を目指すこととなっていたことから、平成27年には「豊島区・造幣局・UR都市機構」の3者の間で協定書を締結にいたった。URが参画したことから用地取得のための負担が大きく軽減され、URが補助金の申請から交付金受領、事業実施と円滑に財政的手続き等にも区への負担も軽減され、そして区の負担を割賦償還することができている。また、全国で2番目となる Park-PFI の手法を取り入れた先進事例として、民間の活力をうまく取り入れることもできている。区での今後の取り組みの参考としたい。

豊島区の防災公園2カ所を視察して

たかはま なおき 副委員長

災害対策調査特別委員会にて、豊島区の「雑司が谷公園」と「としまみどりの防災公園(IKE・SUNPARK)」を視察した。両施設とも、平常時は地域住民の憩いの場でありながら、発災時には防災拠点として機能する点が特徴である。

雑司が谷公園ではソーラー照明や非常用トイレ等の設備を確認し、IKE・SUNPARKでは都心部におけるヘリポートや物資集積所としての機能を視察した。特に印象的だったのは、カフェや芝生広場といった日常の風景に自然に溶け込み、コミュニティの核となりつつ、災害時にも有効に活用できる点だ。

文京区は密集市街地が多く、新たな大規模用地の確保は容易ではない。しかし、既存の公園機能を再点検し、日常の賑わいと非常時の機能を両立させる「フェーズフリー」の視点は、本区の公園整備においても極めて重要である。単なるあそび場にとどまらない「生きた防災公園」のあり方を、今後の区政に強く働きかけていきたい。

災害対策調査特別委員会視察を終えて

吉村 美紀 委員

1. 雑司が谷公園 丘の上テラス

当該公園は、公園計画検討会による維持管理の検討で、公園の管理も地元住民が参加できるようにしたいとの意識が高まり、有志にて NPO 法人雑司が谷ひろばくを組織し、当該公園の運営・管理を行うと共に、区から委託を受け区内の7つの公園の清掃等も実施している。地域の方が主体的に関わることにより、近隣トラブルの際にスムーズに解決が可能となるメリットもあり、皆で公園をより良いものにとの意識からきめ細かな地域への対応を行っているようである。このような管理・運営方式は参考になった。

2. としまみどりの防災公園（IKE・SUNPARK）

当該公園は、防災・賑わいの拠点として整備された公園であり、防災公園区域では雨水を使用した非常用トイレも整備されていた。また、飲食店等の公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用して特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う Park-PFI 方式を全国で2番目に採用しており、カフェの収益の一部を整備費に充当している。その手法も参考になった。

3. 今回の視察を今後に活かしていきたい。

雑司が谷公園「丘の上テラス」・IKE・SUNPARK の視察 を終えて

石沢 のりゆき 委員

雑司が谷公園「丘の上テラス」では、「丘の上テラス」地下に 160 トン貯留可能な雨水貯留槽や防火水槽を整備し、災害時の消防活動などに利用したり、災害用トイレの洗浄水で使ったりする機能を備え、雑司が谷公園の周囲が木造住宅の密集地域であることにも考慮された防災施設となっていることがわかった。視察した際には公園内で子どもたちが遊んでおり、テラス内では子どもたちが学習・活動に励み、地域の方々もテラス席に座って休むなど、大切な居場所になっていた。

IKE・SUNPARK では、旧造幣局跡地を利用した広大な防災公園で非常用トイレも充実させ、持ち運びできるかまどベンチも置き、木造密集地域の火災からの延焼防止のための防災樹も植え、ヘリポートも備えるなど重要な防災拠点として整備されていた。

2施設とも日陰が少なく視察に同行していただいた豊島区の担当者も「夏場の日よけについては課題になっている」とのことで、暑さをしのぐためにも木陰や日陰を作ることの重要性を改めて再認識した。

雑司が谷公園「丘の上テラス」・としまみどりの防災公園を視察して

宮崎 こうき 委員

雑司が谷公園は、完成するまでには町内会・商店街・コンサルタント等で連携をして様々な意見を取り入れ事業を進めたということで、まさに地域住民の方々が一体となり作り上げた防災公園という印象を受けた。

土地の面積的にも防災に適した十分な広さもあり、公園内は子ども達が喜ぶ「水遊びひろば」や「ボールひろば」などもあり、丘の上テラスでは地域住民の方達の憩いのスペースにもなるエントランスホールや集会室があり、その下の地下1階には防災機能として「防災倉庫」「備蓄倉庫」「災害時用トイレ」「雨水貯溜槽」「防火水槽」などが備わっている。

二ヶ所目に視察した「としまみどりの防災公園」は、平常時はその広大な面積を活用しイベント等も開催できる公園として区民に親しまれているイメージが強いですが、防災施設の機能として「かまどベンチ」「応急給水施設」「防災カメラ」「備蓄倉庫」「ヘリポート機能」などをはじめ様々な防災機能が備わっており、区内最大級の防災施設としての役割の面を持つことを今回の視察で改めて実感することができた。

今回視察した二ヶ所の施設とも、今後も更に豊島区民を含む多くの方にとって重要かつ大切な場所となっていくかと思いますので、文京区にも同じような防災拠点施設を増やしていければと思いました。

豊島区防災公園を視察して

岡崎 義頭 委員

豊島区雑司が谷公園丘の上テラスは、小学校跡地を活用しての施設で、周辺が木造密集市街地で災害危険度の高い地域でもあり、備蓄倉庫をはじめ雨水貯溜槽・防火水槽も兼ね備え、太陽光発電による災害時の発電源としての機能も有し、地域の安全性の向上を図るとともに地域コミュニティの拠点として、子ども達の遊び場としても活用できる防災機能を兼ね備えた公園でした。特徴的なのは、地域の町会、商店会、NPO法人によって公園の運営をされており、日頃より、より身近な存在として多くの方々が公園を利用しておりました。

としまみどりの防災公園（通称 IKE・SUNPARK）は、造幣局の跡地のうち1,7haという広大な広さをもつ防災公園で、非常用トイレのほか一時避難場所や救援物資の搬入、集配拠点としての機能もあり、木造住宅密集地域に面した外周部には火災の延焼を防ぐ防火樹林帯を施した防災公園でした。防災機能のほかカフェやコトポートを併設し、平常時は多くの人々が楽しめる賑わいの場としても機能していました。両公園とも今後の文京区の防災拠点の在り方にとっても参考になりました。

視察を終えて

浅田 保雄 委員

・雑司が谷公園全体

街づくりに、防災の観点が入り入れられ広範な地域の特殊性が生かされていました。「名称を雑司が谷地区まちづくり協議会に改め、活動の区域も雑司が谷・南池袋地区全域（オール雑司が谷）を対象」となっています。

防災を位置づけるにあたり、広域になるほど地域のコンセンサスを得ることが難しくなります。中心となる方、呼びかけた方の努力と豊島区の努力に敬意を表します。視察時、夕刻に周辺地域の子もたちの遊ぶ声が聞こえていました。安全で安心が確保されている公園として活用されていました。重要な課題です。

・IKE・SUNPARKの防災機能

池袋駅に近く、災害時に帰宅困難者が相当数考えられますが、その対策として、広場の多目的な活用が準備されていました。想定外の人が押し寄せるかもしれませんが、隣接する大学との連携や受け入れの体制と、物資などの確保がされていました。広場を確保する大切さを学びました。また、近隣の大学や民間法人ビルとの連携の必要を感じました。

災害時こそ、誰も取り残さないトイレを ～豊島区の公園視察から～

海津 敦子 委員

大規模な地震が起き、電気や水道が止まっても、通常の水洗トイレと同じように使える——それは、災害時において非常に心強い備えです。

文京区では、シビックセンターのトイレが雨水を貯留して活用されており、災害時には帰宅困難者等に水洗トイレを開放することになっています。

では、区内の公園はどうでしょうか。残念ながら、現時点では電気や水道が止まっても水洗で使えるトイレは整備されていません。

一方、豊島区は「災害時にも役立つ公園」を目標に掲げ、視察した雑司が谷公園やIKE・SUNPARKには、水道や電気が止まっても洗浄可能な水洗トイレが整備されています。災害弱者の避難も想定されているからです。

障害のある方や高齢者にとって、簡易トイレの設置や後処理は大きな負担となります。災害時こそ、トイレは切れ目なく使えることが重要です。

文京区でも、公園整備において「災害時にも水洗トイレが使える」という視点が不可欠だと感じました。

豊島区における防災公園の機能を学ぶ

山本 一仁 委員

災害対策特別委員会の行政視察として、豊島区の雑司が谷公園と IKE・SUNPARK を視察させて頂きました。

どちらも、防災公園としての機能が充実していて、非常用トイレ、かまどベンチ、備蓄倉庫、防災井戸など、豊富な機能が整備されておりました。その他として、応急給水施設（地下）、非常用発電機、ヘリポート、そして防災樹などは、本区としても新たな取組として、今後の公園整備に取り入れていくべき課題であることが確認されました。

本区の特性を考慮しつつ、防災拠点としての公園を整備する中で、可能な限り充実した機能を配備し、災害時における効果的な対応を進めていくことが重要であると、認識させられました。

視察を終えて

浅川 のぼる 委員

はじめに、豊島区の雑司が谷公園を視察しました。ここは小学校の跡地で、地域の皆さんが計画づくりの時から関わり、完成後も守り育てていく公園で、災害時には丘の上テラスが対策本部とされ、避難弱者向けの避難所となります。そして、発災時に区の職員が運営する救援センターを補完する補助救援センターとして、地域住民の手で運営します。園内には防災設備や太陽光発電、備蓄倉庫や防災倉庫、雨水貯留槽や防火水槽等が整っており、災害対策の参考となりました。

次に、区内最大級の防災機能を備えた、東池袋の IKE・SUNPARK（としまみどりの防災公園）を視察しました。ここは地区整備内容を3区域に分け、防災公園区域は防災性向上と賑わいの創出、市街地区域のAは帰宅困難者受け入れや備蓄物資保管、市街地区域のBは木造住宅密集地域解消に配慮した開発手法で、防災公園街区整備事業による防災公園地域と市街地区域が一体となったまちづくりと災害対策を体感し、今後の公園整備の方向性を学びました。

「雑司が谷公園」及び「IKE・SUNPARK」視察報告

豪一 委員

「雑司が谷公園」

多くの課題を抱えていた雑司ヶ谷地区に風通しの良くなる開発を行い誕生した、住民のよりどころ「雑司が谷公園」。擁壁により閉止められた土地が、天然芝の緩い傾斜地に再開発されることにより、風通しが良くなった。安全、安心の豊かさを感じた。公園を中心にみると隔たれていた方向の地域が解消され、東西南北どこからもアクセスできる公園に変貌を遂げた。公園内建物は公共性、機能性が高く、様々なイベントや会合スペースとして活躍している。

「IKE・SUNPARK」

「公園が都市を守る」広大な芝生広場、季節を彩るサクラやイチョウ、火災の延焼を防ぐシラカシによる防火樹林帯などのある、区内最大面積の公園、夜間も安心して時間を過ごせるよう、照明が計画されている。災害時に備え、備蓄倉庫、消火用水確保のための深井戸、非常用トイレ等が整備されており、発災直後は一時避難場所として 9,000 人程度が利用できる。区内最大規模の公園として、ヘリポート機能を有しており、道路の閉塞時には各種物資や傷病者の搬送を行う。災害時に、国や都、全国各地の自治体や団体等から送られてくる救援物資を本公園に集積し、区内各所の救援センター（避難所）へ搬送する。普段は見通しの良い、イベントや飲食スペース等も多く親しまれている公園。



としまみどりの防災公園(IKE・SUNPARK)にて